

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 700号特別寄稿「歴史に学ぶ公民館」 今井昭友

4.5

- 2 トピックス 創刊700号に寄せて
生涯学習推進課長 三林 康弘 / 上村捨二郎 / 手島 勇平 / 鈴木 友夫
- 3 視点 「文化会館事業って」 聖籠町町民会館 (文化会館) 社会教育主事 水戸部吉成
- 3 ひろば 「市民スポーツ実施率の向上」 南魚沼市 中央公民館 高橋 克美
- 6 実践記録シリーズ 「日本語交流ひろば活動状況」 南魚沼市 櫻井 徳治
- 7 サークル交流 「手具は大切な仲間です」 (新潟市味方) / 「とにかく書こう」 (三条市)
- 7 素顔拝見 星野 京子さん (魚沼市) / 五十嵐文明さん (出雲崎町)
- 8 お元気ですか 大桃 千尋さん (魚沼市)
- 8 ネットワーク information / 県立自然科学館イベント案内

創刊700号
記念号



北御牧・名立フレンドシップ! 海と山の交流会

表紙解説
名立漁港で遊漁船に体験乗船し、海上から名立崩れ跡や機雷爆発地点など、名立の歴史を学びました。



極楽橋

表紙解説
松平忠輝が慶長19年(1614)、高田城を築城した際に二の丸から本丸に通じる本橋として設けた(平成14年に復元)。



創刊700号に寄せて



創刊700号発行にあたって
新潟県教育庁
生涯学習推進課長
三林 康弘

戦後まもなく設置された公民館は、県民の一番身近な学習の場として、大きな役割を果たしてきました。しかし、時代の流れとともに、公民館の役割も大きく変化しています。これから公民館は、学びの場としてだけでなく、地域課題解決のための拠点施設として、地域のコーディネートとして重要であり、皆様の活動に大きく期待しております。

また、当課では、生涯学習社会の実現に向けた環境整備を推進しておりますので、皆様方の御協力をお願いします。

最後になりましたが、貴会のますますの御発展と御健勝を祈念申し上げます。



想い出
（元事務局長）
昭和61年～平成9年
上村捨二郎

昭和40年代から平成の今日に至る20余年の社会教育界、特に公民館界の変化は、実に激しいものがありました。その変化の一つは、いわゆる行政改革のありを受けてのことだと思えますが、市町村の公民館職員の数も減少の一途を辿ってまいりました。二、三年の周期で配置転換を余儀なくされる公民館職員が当たり前のことになってまいりました。したがって、公民館の事業や活動に関する研究成果の積み上げ方式が困難になってきていくことでした。そのため、自分の仕事の理解が精一杯で、他を顧みる余裕が

ないわけでは、自分たちのために、自分たちで組織している「県公連」という団体の存在さえ知らない職員が出現しているのに驚きました。若い職員ほど「我ら意識」が希薄化の傾向にあるのです。公民館長にあっても非常勤で、事業の一部にしか責任を持たされない館長も出現するなど、「県公連」という組織との結びつきに意を注ぐことの困難な条件が現れています。したがって、公民館活動に必要な仲間意識とか連帯意識が希薄化の傾向にあるわけですから、関ブロ湯沢大会を成功させることができるのか、少々暗い気持ちになったのが偽らざるところでした。

平成9年発行 著書「公民館冬物語」より抜粋

私の任期中に成果があったこと、特に県・市町村社会教育行政関係者から評価を受けたことは、公民館職員の資質向上研修の強化でした。そのことが、「町おこし」や「地域づくり」につながる公民館事業になりました。その当時の思い出深い公民館職員に「柏崎の戸田洋子さん、品田尚道さん」「新潟市の梶瑠子さん」がいます。みんな情熱的でした。

新潟市では他に、手島勇平さん、伊田千代子さん、三保恵美子さん、今井昭友さんなども忘れられない人です。私は齢86歳になりましたが、今でも公民館の話になると気持ちがしゃっきりしてきます。

月報で縦軸と横軸を



元聖籠町教育長
手島 勇平

東日本大震災地の公民館は避難所というだけでなく、公民館職員や震災前の実践が関わっていることに期待したい。中越

地震の十日町小学校区や中越沖地震の柏崎市北条地区では社会教育での繋がりと学びがその後の復興に大きな力となったことからも、終戦後、寺中作雄氏は「これからの日本の再生は東京に議事堂一つあるだけでは進まない。全国に公民館を建設して」と公民館の歴史が始まった。歴史は繰り返してはならないが、原点にたつた復興を念じている。

他の社会教育施設に国立・県立はあるが公民館は市町村立である。が、平成の合併・指定管理者・首長部局統合・学校支援型行政が進み、公民館職員や実践が見えにくい。月報発行が公民館の縦軸（歴史）と横軸（事例）を紹介することにより、現場の軸足が確かになる。復興と月報の発行継続に期待したい。

本紙保存電子データ化に祝意



前事務局長 鈴木 友夫

本紙3月号第2面に、全公連「地域活動支援事業」の指定を受け、紙質劣化した創刊号から200号まで、3年間にわたる補助事業で、PDFファイルとして電子データ化する、と報じております。過去、本紙編集・刊行に携わった者として心からお祝い申し上げます。

実は、平成15年2月「600号刊行を祝って」月報抄刊行の折、私はそのあとがきで、県公連50周年記念事業の一環として、永久保存のためCD-ROM化について検討したが、予算の目処が立たず断念せざるを得なかった、と記載しております。

このような経緯から、今回指定事業として保存化をリストアップされた田原事務局長の先見性と熱意に、最大の敬意を表する次第です。

また、第1回全国都道府県公連広報紙コンクールに、本紙が「優秀賞」を受賞されたことにも祝意を表します。

祝 新潟県公民館月報 創刊700号

感性・情報価値 創造企業

dip 株式会社 第一印刷所

- 本社 〒950-8724 新潟市中央区和合町2丁目4番18号 第一和合ビル TEL (025) 285-7161(代)(営業本部)
- 東京本部 〒110-0003 東京都台東区根岸2丁目14番18号 第一根岸ビル TEL (03) 3871-4261(代)
- 本社工場 〒950-0134 新潟市江南区曙町4丁目6番18号 TEL (025) 382-7400(代)
- 企画開発本部 第一CIC ●中越支店 ●上越支店 ●佐渡営業所 ●情報工房DOC

http://www.dip.co.jp/ E-mail info@dip.co.jp

視点

「文化会館事業って」

聖籠町市民会館(文化会館) 社会教育主事 水戸部吉成



そんな中、私の目下の関心は「文化会館事業後のレガシーをいかに持続可能なものにするか」です。大きな会場での事業を行うことはそれだけ事業自体も規模が大きくな

ります。公民館、体育館、図書館、調理場、そして文化会館。担当となつて2年余りですが、いまだにこの文化会館での「社会教育とはなんですか」との問いにわずかの糸口も見出せません。私のマーケティング不足が否めません。イベントによる貸館を見て勉強させてもらっている毎日です。

「ともに作りあげるのは大変です。大変な思いをしなさい。」
通常業務でぎりぎりの私ですが「大変な思い」をできるような精進することが近々の課題です。

H O T N E W S 掲 示 板

新役員決まる

5月27日(金)に行われた理事会、評議員会で、平成23年度の新役員が決まりました。(○印は新任役員)

役 職	郡 市	氏 名	所 属
会 長	上越市	○大塚美光	上越市立公民館
副会長	新潟市	和田明彦	新潟市中央公民館
◇	新発田市	○湯浅康夫	新発田市中央公民館
◇	長岡市	○鈴木 昇	長岡市中央公民館
理 事	五泉市	湯浅善章	五泉市公民館
◇	胎内市	○丹後勝次	胎内市中央公民館
◇	見附市	○森沢亜土	見附市中央公民館
◇	南蒲原郡	丸山 敬	田上町公民館
◇	糸魚川市	○田原秀夫	糸魚川市中央公民館
監 事	佐渡市	三國 豊	佐渡市公民館
◇	十日町市	○水落久夫	十日町市中央公民館
評議員	村上市	○渋谷直喜	村上市中央公民館
◇	阿賀野市	○吉野晴記	阿賀野市中央公民館
◇	東蒲原郡	横山一磨	阿賀町公民館
◇	岩船郡	本保敦子	粟島浦村中央公民館
◇	三条市	○金子正典	三条市中央公民館
◇	柏崎市	○白川信彦	柏崎市柏崎公民館
◇	小千谷市	横山貴吉	小千谷市公民館
◇	加茂市	○坪谷正良	加茂市公民館
◇	燕市	笠原 修	燕市中央公民館
◇	魚沼市	星野修美	魚沼市中央公民館
◇	南魚沼市	○阿部正夫	南魚沼市中央公民館
◇	西蒲原郡	○若井 優	弥彦村公民館
◇	三島郡	佐藤 亨	出雲崎町中央公民館
◇	南魚沼郡	○岩崎裕一	湯沢町公民館
◇	中魚沼郡	松縄廣道	津南町公民館
◇	刈羽村	○伊藤徳光	刈羽村公民館
◇	妙高市	宮下義嗣	妙高市公民館

市民スポーツ実施率の向上

南魚沼市 中央公民館 高橋 克美



現在、市民スポーツ実施率を高める取組みを策定する委員会に属しています。昨年、南魚沼市のスポーツの現状を知るべく市民アンケート調査を実施しました。その結果の一つにスポーツ実施率は若い年代層が低く、高齢者が高いことが判りました。市のスポーツ実施率を上げるには、若い年代層を惹き付ける魅力ある情報や施設を提供することが必要です。単に施設の情報、スポーツイベントの情報、チラシやパンフレットを配布するだけでなく、地域密着のラジオ放送、市のホームページなどを駆使して各スポーツ団体の活動状況を公開することで関心を持ってもらい、始める切っ掛けにしてもらいた



い。また、年代別に求めているスポーツが異なるので、年齢、体力に応じたスポーツの提供が出来る指導者が求められます。「指導者の登録制」ということは以前から言われていましたが、求められる指導者を派遣する仕組みの実現が急がれます。さまざまな団体と連携し、ネットワーク化を構築することが各年代層に相応しい指導を生み、それがスポーツの継続に繋がり、スポーツ実施率上昇の鍵となると確信しています。

学 ぶ 公 民 館

分館として24館置かれている。今春、「社会教育私の挑戦」を出版した品田尚道元柏崎市公民館副参事は、この摩訶不思議な現象を「市長の手紙」で詰問中という。

ところで県都新潟市は、17年に14市町村が合併し、19年4月に政令市となった。人口は51万人から81万人、面積が232km²が726km²、弥彦の麓近くまでの8行政区となる。公民館は、1中央公民館、8基幹公民館、16地区館、37分館。職員は63人が150人と中央集権型となった。行政区割・名称ともに苦勞する。旧新潟市や旧合併市町村を分割する難かしさが、公民館の基幹公民館と地区公民館の位置取りで確執をもたらした。もともと「合併ありき」の大前提が優先され、各論は合併後に持ちこされる。従って公民館は、人員・料金有料化・開館等の制度問題を抱えてスタートした。これでは第1次生活圏の小学校に、「学区公民館」設置の再編成を提案したくとも、学校適正配置審議会の動向もあり論議に至らない。

本市は「田園型と分権型」を目指して、政令指定都市の仲間入りはしたが、横浜市360万人や100万人超は11市である。

県下の教育長会議は学校教育の話ばかり、まして政令市教育長会議に公民館は議題とならない。大方の教育委員会の実情は「学校教育委員会」であり、社会教育の首長部局移管の話が出るのも頷ける。かつて、「学社融合」を考える研修会（H10.10）のパネラーに宮崎稔小学校長（学校と地域の融合教育研究会会長）がおられた。その後、学校長を断り公民館長として鳥根の海士町へ入られた。人口2,500人、松江からフェリーで3時間の島で地域づくりを推進する町長が、教育特区で学校づくりをするために招聘した。こんな教師もいるのだ……。

話を戻すと、数年前から「新潟市公民館はどうした」の声しきり。私は合併後遺症と思うが、市職員に病欠・自殺・早期退職が続出したようだ。中央公民館長は、私の退職後7年間で4人が交代した。そして、公民館職員に区役所地域課の「併任辞令」を交付。21年、出張所や公民館機能を活かした「まちづくりセンター構想」を提唱し、22年度は3地区でモデル事業を開始した。

また、教育ビジョンを策定し小中学校に「地域と学校パートナーシップ事業」をたち上げた時に、公民館は腰がひけていた。「学・社・民の融合」をいう前に、教育委員会の連携を忘れたのか従来の殻が破れなかった。

さて、4人目の和田明彦中央公民館長は、この危機感から21年12月に「公民館のあり方懇談会」を設置し、22年9月、2010にいがた公民館改革フォーラ

ム「改革宣言」を發した。12月市議会定例会で「公民館改革」が質問され、教育長は「専門分野を登録するキャリア選択型人事制度を活用して職員配置をする」と答弁を得た事は収穫である。

今後は茨の道かと思うが、火中の栗を拾うのは現場の公民館職員にほかならない。

次には、「新潟州（都）構想」が控えているが、コミュニティが担えるのか“正念場”になる。

5 新しい公共

何をもって「公共」とするか。手島勇平前新潟市教育政策監（元聖籠町教育長）は、①「共同・共通の利益」の実現は自治体の公的目的という。しかし、現実には共同・共通は分断されているので市民が何をもって共通とするかがテーマである。②憲法等の権利保障、人権を守るために存在するのが自治体。しかし、人権の深さと幅は市民共通のテーマに。③市民に対する公平性。民間の利潤には無い基準で①②が公平に行き渡っているか。自治体独自の役割で三つの基準の実現は、市民の評価力と関わる。

この力量形成は「学び」によるしか無い。ここに、公民館の公共性と専門性が求められるという。

新めて、齋藤教授の言う市民が協働による先見事例の時が来たのである。

本年2月、新潟市北区での公民館海援隊シンポジウムで鈴木寛文部副大臣は、参加創造型社会を作るのは地域主権にある。この推進と「新しい公共」は、公民館が地域の中心となり「熟議による民主主義」を展開して頂きたいと話された。

6 災害に備える公民館

普段の災害学習がいかに大切か、またコミュニティを支えるのも公民館に集うネットワークの力である。

正に行政による「公助」、個々人の自覚に根ざした「自助」、さらには地域における「共助」の取り組みが不可欠である。日頃の「地域づくり・人づくり」「絆づくり」がなければ、公民館には人は行かない。

今回の大震災を機に、原発依存の「安全神話」を脱し、現代的課題の環境・資源・エネルギー学習を公民館は避けてはならない。

そして、本県におられる避難者に対しても積極的に関わって欲しい。皆で支援の輪を広げよう!!

おわりに

奥田泰弘中央大学教授は、『月刊社会教育（H8.6巻頭）』で「気がついたら公民館がなくなって!ということがないように」と警鐘された。

先生は、念願の公民館学会を15年に発足させる。そして18年3月に退官し、師走に急逝した。今一度、この言葉をかみしめたい。

特集

創刊700号特別寄稿

歴史に



今井 昭友

東日本大震災、翌日の長野県北部地震は未曾有の被害を与えた。1日も早い復旧・復興を祈念するばかりである。

私は、新潟市中央公民館長を平成8年4月に拝命し退職が16年3月。県公民館連合会長は、同期間の8年。その間、全公連理事・監事も務めさせて頂いた。

1 寺中構想の再確認

昭和59年10月の公民館月報380号を見ると、『初心忘るべからず—公民館の原点・「寺中構想」に学ぶ』が大きく掲載されている。

昭和21年7月、この文部次官通牒は、文体こそ古いが正に東日本大震災の様相を呈している。寺中作雄文部省公民教育課長(のち社会教育局長)の文章が新鮮にさえ感じられる。

私は、平成12年7月の県公連創立50周年記念式典を思い出す。講演が、廣瀬隆人宇都宮大学助教授(現同大生涯学習教育センター教授)であった。氏は、この構想が公民館の現代的な意義を考えさせるといふ。結びからは、機関として公民館に与えられた「地域づくりと文化の創造」という命題が読みとれると述べられた。(県公民館50周年誌参照)

2 「公民」の視点

平成11年7月、県公民館大会の講演で、齋藤勉新潟大学教授は「大衆を公民(コモン・パーソン)に変容させる大人の学びの館が公民館である。近來の日本は、プライバシーとか個人に片寄り過ぎ「公民」の意味が理解できなくなってきた。それは、日本社会が壊れかけてきたともいえる。家族が1番小さい公民であるが、この家族も少しずつ壊れ始めている。「公民」は“公共性と共同性の両方を理解でき、かつ行動できる人”である。この公民を育むために、公費である税金で公民館と職員を配置・運営しているという。

これは、教育基本法第17条(政治教育)「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない」とある。中学校の学習指導要領の社会科に「公民的分野」を定め、3学年で履習する。目標には①個人の尊厳と人権の意義、自由、権利・義務の関係②民主政治の意義、現代社会は個人と社会のかかわり③世界平和の実現と人類の福祉④社会的な事象を公正に判断、表現する能力を育てると掲げる。一度、県公連主導のもとに「公民教育」を館長・職員研修で実施して欲しい。

3 指定管理者制度

平成15年9月「地方自治法第244条」の改正で、公の施設は自治体出資法人に限定されていた委託先が民間企業に、公民館が株式会社に運営可能になった。「民間にできることは民間に」という構造改革路線の一環である。この改正後、埼玉県ふじみ野の市営プールで事故死が発生し管理責任が問われた。文化施設で市場原理や稼働率を優先するなら、人気タレントのショーが手っ取り早い。これでは公共施設本来の役割とは違う、だから評価が大事である。公民館の運営では、社会教育法第23条に営利事業の利用・援助を禁止している。また地方行政教育法第30条に公民館、図書館、博物館は「教育機関」として明確に位置づけており、社会教育施設の管理主体は教育委員会である。

導入後、この制度の問題点が表面化され、20年5月、社教法一部改正の時に「指定管理者制度の導入による弊害あり」と盛り込んだ附帯決議を衆議院文部科学委員会は全会一致で採択した。この時の参考人として社会教育推進全国協議会(社全協)委員長の長澤成次千葉大学教授が招致された。そこで「社会教育法の一部を改正する法律案」の問題点を指摘した旨を、夏の社全協北海道集会で話された。因みに私は、16年11月に千葉県公民館研究大会で野田市長、長澤教授の3人でシンポジウムにご一緒した縁もあり、感慨深く聞いていた。また北海道の地で、話題のNPO法人「米原方式」で管理・運営する米原公民館の若い女性副館長とお話する機会があった。寺中構想を行政より大切にしている姿勢には驚いた。

何れにしても、指定取消や美術館・図書館で直営復帰の動きも出てきているが十日町市図書館(情報館)は、次年度より指定管理者の動きもある。公民館は他分野の団体とも連携し、公共性を問いつつ法改正を現実のものにする努力を惜しまないで欲しい。

4 市町村合併

本県は、全国一の合併推進県で平成11年に112あった市町村が、22年3月に長岡市と川口町が合併して30となった。

県公連は、15年6月「市町村合併問題調査検討委員会」を発足。7月の県公民大会における「緊急アピール」は、関プロ研究大会・全公連全国研究集会の起草文に引き継がれた。十日町市は合併を機に、公民館・社会教育組織の充実を図った。上越市は公民館の存亡がささやかれたが、主事等のたちあがりて13地域自治体に全館配置を果たした。長岡市は、コミュニティセンター化が加速し、中央公民館のみを残した。柏崎市は、公民館とコミュニティを一本化しコミュニティセンターとした。しかし、条例には〇〇

実践記録

159

シリーズ

「日本語交流ひろば活動状況」

南魚沼市 櫻井 徳治

❖ 日本語教室を開くまで

結婚して外国から来る花嫁さんが増え、日本語指導の要望が市役所に寄せられるようになりました。

そこで、平成18年3月に、「南魚沼地域日本語交流支援実行委員会」を立ち上げ、南魚沼広域事業の補助金で事業実施することに決まりました。

参加者の募集は、各地区の婦人会から外国人花嫁の情報を寄せていただきました。指導者はうおぬま国際交流協会や婦人会などに要請するとともに広報等で呼びかけた結果、43名から協力の申し出がありました。

第1回は日本料理の「太巻きずし」講習会をすることとし、午前・午後と2回開催で、参加者延べ32人、スタッフ49人で平成18年6月4日に実施しました。

その会場で7月から日本語教室を実施することをお知らせして、そこで作った太巻きを食べ、家族にはお土産を持って帰ることができました。

❖ 開始後の教室の状況

第1期の日本語教室は、受講生26人、指導者14名で、出身国や日本語のレベルにより6クラスに分けて、7月9日から始まりました。シンガポールで日本語指導していたスタッフが、テキストの準備やスタッフへの日本語指導に大きな力となってくれました。

3ヶ月を1期とし2期が始まるまでの1ヶ月間に指導者講習や参加者を対象とした料理教室、市内探訪バスツアー、年金、健康保険や学校制度などの説明会も開催しました。

また、魚沼市の日本語教室との交流事業として、合同で「春節祭」を開催しました。市民会館の多目的ホールいっぱいに参加者とその家族とスタッフが集まり、それぞれ自慢の料理を持ち寄りゲームやカラオケを楽しみました。(写真参照)

平成18年度は、教室開催48回、受講者延480名、スタッフ延325名になりました。

平成19年度は、水曜日の午後は大和公民館、水曜日の夜と日曜日の午前を中央公民館の2会場に分けて実施することになりました。また、家族揃って参加できるように、日本語教室の名前も、「家族で参加できる日本語交流ひろば」に変えました。

平成19年度は、開催延100回、参加者326名とスタッフ361名になりました。

❖ 3年目から現在まで

日本語交流ひろばが始まり5年経過しました。発足当時の華々しさはありませんが、継続的に参加者がおり今日まで続いています。

中央公民館の夜教室の参加者は、以前の参加者と変わってきましたが、再参加する方もいます。平均すると参加者、指導者とも3～4名でほぼマンツーマンの学習ができています。

大和公民館の昼教室は、国際大学の学生の家族が多くなっています。親は熱心に日本語学習で、子ども達は遊びに夢中です。参加者、指導者とも4～5名で進められ

ています。

日本語教室が5年続いてきたことで、広く認知されてきたのではないかと考えています。

❖ 日本語教室継続の力は

日本語教室が5年間続いてきたことは多くの要因があります。まず、担当者が熱心に取り組んだことがあげられます。社会教育や公民館事業で最も大切で基本的なことは担当者が一生懸命に取り組む姿勢を参加者に示すことが必要です。

次に、うおぬま国際交流協会、各地区婦人会の全面的な協力が得られたことです。このような事業は、継続的に協力できる人たちがいなければ続けることができなかったと思います。

一番大切なことですが、多くの日本語指導者が協力してくれたことと中心的になってくれた指導者がいたことです。

また、魚沼市に先行している日本語指導団体があって指導いただけたことなどがあげられます。

❖ 日本語教室のこれからの課題は

この教室を継続させていくために重要なことは、指導者養成を行いながら指導者の確保をすることが大切です。そして、市民一般だけでなく市役所内も含め、日本語教室を広く周知することも必要です。

また、家庭問題などの相談を受けることもあります。相談機関を紹介するなどして深入りしないことが必要ではないかと思っています。

この地域で義務教育年齢以外の人たちへの日本語支援はこの教室しかなく、何とか継続し、お互いの文化を理解しながら共生するために国際理解も深めることが大切ではないかと強く感じています。

日本語交流ひろば 指導者 櫻井 徳治

【うおぬま国際交流協会 副会長】



第1回 春節祭集合写真



特別教室のケーキ作り教室

手具は大切な仲間です

3Bスマイルエイト



3B体操は0才から高齢者迄がボール、ベル、ベルターの三つの手具と共に体を動かす全国組織の健康体操です。私達は毎週一回夜七時三〇分から九時迄無理なく座ってでも良し、これらの手具を使い全身を演歌、ポップス、アニメソング等の曲に乗って楽しく運動しています。硬い体も手具が手助けして支えになってくれますので動きが楽に出来ます。だから3B体操はどんなでも心地良く楽しめます

よ。会は今、五十代、六十代の女性の集まりで休憩時の談笑はこれまた最高で笑いが人の絆を深め癒しとなり若返っています。さあ、老若男女の皆さん歓迎いたしますのでどうぞ。

（新潟市味方3B体操 代表 猪俣由香子 記）



とくかく書いっ

エッセー自由塾

三条市中央公民館のエッセー入門講座は、三年目の去年から「エッセー自由塾」と名を変え、同好サークルとして運営しています。月一回、苦しみながら呻吟しながらエッセー作りに励んでいます。

文法や「てにをは」には目をつむり、「下手でもいいからとにかく書こう」がモットーです。本当は上手に書きたいのですが、なかなかそうはいきません。それなら下手でもと開き直ってみることにしたのです。書くことは身の周りや自分を見つめなおし、誰かに伝えることでもあります。現在会員は十二名。年一回、会員の作品集を発行しています。例会は第二金曜日の午後一時半からです。あなたも気軽に加わってみませんか。



（三条市 エッセー自由塾 講師 岩淵 一也 記）

4月1日から出雲崎町中央公民館に配属になった五十嵐文明さんを紹介いたします。前職は児童福祉関係が担当分野だったので、少年教育に特にやりがいを感じているようです。見た目どおり、大変優しく、口調も柔らかなのですが、いきなり公民館改革を目標にするなど大変熱いハートの持ち主です。最近では、関係団体の方々と、まるで以前からずっと担当だったかのように話を進めています。また、担当である図書関係においても早速自分

出雲崎町中央公民館

主任 五十嵐文明さん



のカラーを出して仕事を始めていて大変頼もしく感じています。

これからどんなふう公民館を改革してくれるのか今から楽しみです。

（出雲崎町中央公民館係長 辰口 芳子 記）

魚沼市広神公民館の主事、星野京子さんを紹介いたします。

私達、魚沼市では、平成16年の合併以後、事務局を中央にまとめる体制から、2年前に、公民館のあり方を再検討しました。「各地域の事は各地域で」の考え方を基に、現在、各地区公民館は、各地域で、その地域に合った活動を自主運営する体制へと変わりました。

その変化の中、初めての役職に不安や戸惑いもあったと

魚沼市広神公民館

主事 星野 京子さん



思いますが、自分なりに考え、熱意と誠意を持って取り組んでおります。窓口であり、PR係であり、実務担当である仕事を、行動力と明るさでこなし、住民から信頼を得ております。これからも、変化する状況の中、活躍を期待しております。

（魚沼市広神公民館長 松田光正 記）



Network ネットワーク

新潟県立自然科学館

「プラネタリウム」夏の新番組が6/25から始まります。

詳細は同科学館へ 025-283-3331

プラネタリウム夏の新番組

6/25日 スタート!!

監督・制作 KAGAYA (カガヤ)

1999年、埼玉生まれ、東京を文芸活動と併せたアートセンスで、中絶と神話の世界を描くアーティスト。

水樹奈々

1997年、プレイステーション用ゲーム「NOEL -La neige-」で声優デビュー、声優として、FM802「水樹奈々」に2年連続出場賞と2人賞受賞。

結神

経済活動の発展を基盤とした、一貫して歴史の地から「日本人魂」とも呼ばれる産業を産出し、世界的に注目されるミュージシャン。

主催 ORIGA

日本を拠点に活動するシンガーソングライター、1994年デビュー「ORIGA」が「アーティスト・アワード」を受賞している。

星座を仰ぎ見てきた人類の壮大なストーリー

何千年も受け継がれてきた星座は、わたしたち何を探りかけてくれるのか、星座のもと、太古の昔から未来へとつながる私たち人類の魂、と神話の世界がプラネタリウムに広がります。

透明な光る作風で国内外に多くのファンを持つKAGAYA スタジオが、アジア神話の星座物語を、神秘的なフルCG映像で現代に蘇らせます。

(神話の物語については別途をご覧ください)

お元気ですか

大桃 千尋 (魚沼市)



年輪を読んで

四月上旬に老人会の班長さんから年輪（堀之内公民館高齢者大学・同老人クラブ連合会編集による年報）第36号の本を受け取り、本にそっと顔を近づけて見ると新しいインクの匂いがして清々しい。

表紙の色は、春の水仙かレンギョウの花が淡いふきのとうの黄色で幸せの色で中を見るのがとても楽しみです。

表紙をめくると老人クラブの一年間の活動や各地区の活躍、ゲートボールの優勝写真がたくさん載っている。次に目次を見ると町内の仲間や若い時の「はといし会」の先輩や短歌教室の友達と大勢の人達に会った気分になるのが不思議です。先に町内の友達や知っている人の原稿を読むと、どの方にも人生のドラマがありとても上手に書かれていて感心するばかりです。また、若い人からは勇気やエネルギーを貰い先輩の方々からは、これからの道標や感動を貰い感謝している。

次に一ページから読み、途中で休み、本に葉を挟む。でもその葉を忘れてまた一ページから読む。この頃忘れ上手になって……。リンダの歌のように困っちゃうの忘れぼくて、どうしようと。鼻歌を歌ってページをめくる。

年輪は何回読んでも新鮮でとても素敵な本だと思っています。こんな立派な本を編集して下さいました委員の皆様にも勇気と元気を戴き感謝の気持ちでいっぱいです。

information

自主財源確立のための調査検討委員会の委員を委嘱

当公民館連合会では、会の運営に必要な財源を確保するために検討委員会を設置しています。主に市町村から負担していただく賦課金の算出や月報販売の収益等の検討をお願いしています。

平成23年度～24年度（2年任期）をお願いする委員が下記のとおりになりました。

- ◎委員長 和田明彦 (新潟市中央公民館長)
- 委員 丸山 仁 (新潟県市長会事務局長)
- 〃 寺瀬千恵 (新潟県婦人連盟事務局長)
- 〃 水落久夫 (県公連監事)
- 〃 湯浅康夫 (下越公連会長)
- 〃 田原秀夫 (県公連理事)
- 〃 金子正典 (県公連理事)

第1回委員会開催

日時 平成23年6月28日(火) 13:30～ 会場 新潟市中央公民館

事務局長のつがやき

あ と が き

田植えが終わって一ヶ月は、通勤の途中に広がる田んぼでは、苗がすくすくと育つ緑が目に増しに濃くなっていく様子がわかります。

色の中では、緑が最も目に優しく心が落ち着く色なのだとか。

今夏の節電に奨励されている、へちま、ゴーヤ、朝顔などによる緑のカーテンは節電の他に、きつと人の心も癒してくれる効果があるのです。

創刊700号の発行を無事終えました。800号に向けてよろしくお祈りします。(田原)

河川愛護月間

～川が好き 川にうつつた 空も好き～

毎年7月は「河川愛護月間」です。動植物の良好な生育環境をもつ、豊かで美しい河川環境の保全・再生への取組みを推進します。

新潟県河川協会

会長(加茂市長) 小池 清彦

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609